東京ケミテック
Tokyo Chemitech

標準塗装仕様書

1液水性反応硬化形外壁用シリコン塗料

# トーケミシリコンテック [水性タイプ]

## 塗料性状・荷姿

| 塗料名 | 色相 | 艶 | 荷姿 | 混合比（重量） | ポットライフ | 標準塗り面積（2回塗り） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| トーケミシリコンテック [水性タイプ] | 標準色48色 | 艶有り 3分艶 | 15kg缶、4kg缶 | — | — | 約47～57㎡/15kg 約12～15㎡/4kg |

## 適用基材

| | |
|---|---|
| 外壁 | 窯業系サイディング、金属サイディング、モルタル、ALC、その他各種旧塗膜 |

注） 下塗り材は、下地の種類・劣化状況に応じて適切な下塗り材を選定してください。

## 標準塗装仕様（塗り替え）

| 塗装工程 | 塗料名 | 塗り回数 | 使用量 (kg/㎡/回) | 塗り重ね乾燥時間 (23℃) | 希釈剤 | 希釈率 (重量%) | 塗装方法 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 下地調整 | ワイヤーブラシなどで、劣化塗膜・ごみ・ほこり・藻・かびなどの付着物を入念に除去し、高圧洗浄後は十分に乾燥させる。<br>下地の浮き・ひび割れ、欠損、シーリング劣化部などは適切に補修する。 | | | | | | |
| 下塗り | 適用下塗り材※1 | 各下塗り材の標準塗装仕様による | | | | | |
| 上塗り | **トーケミシリコンテック [水性タイプ]** | 2 | 0.13～0.16 | 4時間以上5日以内 | 水道水 | 0～5 | はけ・エアレス ウールローラー |

※1 下塗り材は、下地の種類・劣化状況に応じて適切な下塗り材を選定してください。
注）上記の数値は標準のものです。被塗物の形状・素地の状態・気象条件・施工条件などにより多少の幅が生じることがあります。

## 施工上の注意事項

**【本製品の注意事項】**

1. 本製品は超低汚染タイプですが、斜壁・笠木のないパラペット・日の当たらないベランダ内壁など、部位によっては十分な低汚染性を発揮できない場合があります。

**【施工環境・気象条件】**

2. 気温5℃以下、湿度85%以上、被塗物の表面温度が5℃以下の場合、結露のおそれがある場合、屋外で降雨・降雪・強風のおそれがある場合は塗装を避けてください。
3. 乾燥不十分な状態で降雨・結露の影響を受けると、ふくれ・はく離・白化・シミなどが発生するおそれがあります。夜露の早い地域や寒暖差の大きい時期は、早めに作業を終えてください。
4. 絶えず結露が発生する部位・環境での使用は避けてください。水性塗料、水溶性溶剤塗料では塗料中の水溶性成分が表面に溶出し、粘着物として析出することがあります。
5. ALC・軽量モルタル・高断熱型窯業系サイディング・発泡ウレタン使用建材など蓄熱しやすい「高断熱型外壁」では、蓄熱・水分・塗装環境などの条件が重なると、ふくれ・はく離が生じることがあります。躯体含水率が高い場合や漏水の止水処理が不十分な場合も同様です。旧塗膜にふくれがある場合は完全に除去してください。

**【素地調整・下地】**

6. 塗り替えの際は高圧洗浄やブラシなどで付着物・劣化塗膜を十分に除去してください。素地調整が不十分な場合、はく離・光沢不良・色むらなどの原因となります。
7. 高圧洗浄後は十分に乾燥させてから塗装してください。
8. 適用できる旧塗膜は、下地との付着性に問題のない活膜に限ります。光沢の残る旧塗膜や、無機・光触媒・フッ素などで表面処理された窯業系サイディングは、目荒らしのうえ試し塗りで付着性を確認してください。
9. 新設のコンクリート・モルタル面は、pH10以下、表面含水率10%以下まで十分に乾燥させてください。
10. 藻・かびが繁殖している場合は、除去および殺菌処理後に十分水洗・乾燥させてから塗装してください。防藻・防かび性は繁殖を抑制するものです。
11. 洗浄に薬剤を用いた場合は入念に水洗いし、被塗面が中性であることを確認してください。薬剤が残存するとふくれ・はく離・白化の原因となります。
12. 吸込みの激しい下地では、下塗りを濡れ感・艶が出るまで増し塗りしてください。

**【調合・希釈・かくはん】**

13. 希釈は規定の希釈剤・希釈率を守ってください。過剰希釈は隠ぺい力不足・光沢低下・色相変化・だれの原因となります。現場で一度定めた希釈率は以降も同一とし、溶剤形塗料では指定外の希釈剤を使用しないでください。
14. 使用前に十分にかくはんしてください。濃色・艶調整品・遮熱塗料は顔料や艶消し剤が沈降しやすいため特に入念に。開缶後は一度に使い切り、残った塗料を元の容器に戻さないでください。

**【塗装作業】**

15. 所定の塗り回数・使用量を必ず守ってください。不足すると隠ぺい不良・色相差・点さび・耐久性低下の原因となります。薄膜になりやすいエッジ部は増し塗りしてください。
16. 塗り重ね乾燥時間を守ってください。短いと、ちぢみ・割れ・乾燥不良、長く空きすぎると層間の付着不良の原因となります。
17. ローラー目は同一方向にそろえて仕上げてください。はけ・ローラーは製品ごとに専用とし（水性塗料はナイロンはけ）、その日のうちに洗浄してください。
18. 鮮やかな黄・赤・青・緑系の色相は隠ぺい性が低いため、隠ぺい性の良い共色で下塗りしてください。
19. 塗装しない箇所は事前に養生し、付着した塗料は直ちに拭き取ってください。

**【仕上がり・補修】**

20. 被塗物の形状・膜厚・塗装方法などにより、色相・艶が見本と若干異なって見える場合があります。事前に試し塗りを行ってください。
21. 艶調整品は塗り継ぎで艶むらが生じやすいため、面を切って通し塗りしてください。
22. 補修用に使用塗料のロットを控えておき、同一ロット・同一希釈率・同一塗装方法で補修してください。はけ塗りとローラー塗りが混在すると、仕上がり肌や色相に若干の差が生じます。
23. 濃彩色の塗膜は強くこすると色落ちすることがあります。衣類などが触れる部位への使用は避けてください。

**【適用部位・部材】**

24. シーリング面への塗装は、汚染・はく離・割れ・粘着の原因となるため、原則として行わないでください。やむを得ず行う場合は、ノンブリードタイプのシーリング材を用い、完全硬化後に塗り重ね適合性を確認のうえ塗装してください。
25. 可塑剤を多く含む部材（塩ビ鋼板・軟質塩ビ・ゴムパッキン・合成皮革・ラミネート材など）への塗装は、粘着・軟化・汚染が生じるおそれがあります。
26. ドア・手すりなど人が頻繁に触れる部位、床・家具・遊具への塗装は避けてください。

**【保管・取扱い・廃棄】**

27. 塗料は直射日光・雨を避け、子どもの手の届かない場所に保管してください。塗料は凍結させないでください。容器は横倒しにしないでください。
28. 取扱い時は十分に換気し、必要に応じて保護マスク・保護めがね・保護手袋を着用してください。皮膚に付着した場合は石けん水で洗い落としてください。
29. 塗料・塗料容器・塗装用具などは産業廃棄物として処理してください。洗浄水を排水溝・河川・土壌へ流さないでください。
30. 使用期限は未開封で、水性・水溶性溶剤は製造後6ヶ月、溶剤形は製造後12ヶ月です。

東京ケミテック
Tokyo Chemitech

標準塗装仕様書

1液水性反応硬化形外壁用フッ素塗料

# トーケミフッ素テック[水性タイプ]

## 塗料性状・荷姿

| 塗料名 | 色相 | 艶 | 荷姿 | 混合比（重量） | ポットライフ | 標準塗り面積（2回塗り） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| トーケミフッ素テック[水性タイプ] | 標準色48色 | 艶有り 3分艶 | 15kg缶、4kg缶 | — | — | 約47～57㎡/15kg 約12～15㎡/4kg |

## 適用基材

| | |
|---|---|
| 外壁 | 窯業系サイディング、金属サイディング、モルタル、ALC、その他各種旧塗膜 |

注） 下塗り材は、下地の種類・劣化状況に応じて適切な下塗り材を選定してください。

## 標準塗装仕様（塗り替え）

| 塗装工程 | 塗料名 | 塗り回数 | 使用量 (kg/㎡/回) | 塗り重ね乾燥時間 (23℃) | 希釈剤 | 希釈率 (重量%) | 塗装方法 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 下地調整 | ワイヤーブラシなどで、劣化塗膜・ごみ・ほこり・藻・かびなどの付着物を入念に除去し、高圧洗浄後は十分に乾燥させる。<br>下地の浮き・ひび割れ、欠損、シーリング劣化部などは適切に補修する。 | | | | | | |
| 下塗り | 適用下塗り材※1 | 各下塗り材の標準塗装仕様による | | | | | |
| 上塗り | **トーケミフッ素テック[水性タイプ]** | 2 | 0.13～0.16 | 4時間以上5日以内 | 水道水 | 0～5 | はけ・エアレス ウールローラー |

※1 下塗り材は、下地の種類・劣化状況に応じて適切な下塗り材を選定してください。
注）上記の数値は標準のものです。被塗物の形状・素地の状態・気象条件・施工条件などにより多少の幅が生じることがあります。

## 施工上の注意事項

**【本製品の注意事項】**

1. 本製品は超低汚染タイプですが、斜壁・笠木のないパラペット・日の当たらないベランダ内壁など、部位によっては十分な低汚染性を発揮できない場合があります。

**【施工環境・気象条件】**

2. 気温5℃以下、湿度85%以上、被塗物の表面温度が5℃以下の場合、結露のおそれがある場合、屋外で降雨・降雪・強風のおそれがある場合は塗装を避けてください。
3. 乾燥不十分な状態で降雨・結露の影響を受けると、ふくれ・はく離・白化・シミなどが発生するおそれがあります。夜露の早い地域や寒暖差の大きい時期は、早めに作業を終えてください。
4. 絶えず結露が発生する部位・環境での使用は避けてください。水性塗料、水溶性溶剤塗料では塗料中の水溶性成分が表面に溶出し、粘着物として析出することがあります。
5. ALC・軽量モルタル・高断熱型窯業系サイディング・発泡ウレタン使用建材など蓄熱しやすい「高断熱型外壁」では、蓄熱・水分・塗装環境などの条件が重なると、ふくれ・はく離が生じることがあります。躯体含水率が高い場合や漏水の止水処理が不十分な場合も同様です。旧塗膜にふくれがある場合は完全に除去してください。

**【素地調整・下地】**

6. 塗り替えの際は高圧洗浄やブラシなどで付着物・劣化塗膜を十分に除去してください。素地調整が不十分な場合、はく離・光沢不良・色むらなどの原因となります。
7. 高圧洗浄後は十分に乾燥させてから塗装してください。
8. 適用できる旧塗膜は、下地との付着性に問題のない活膜に限ります。光沢の残る旧塗膜や、無機・光触媒・フッ素などで表面処理された窯業系サイディングは、目荒らしのうえ試し塗りで付着性を確認してください。
9. 新設のコンクリート・モルタル面は、pH10以下、表面含水率10%以下まで十分に乾燥させてください。
10. 藻・かびが繁殖している場合は、除去および殺菌処理後に十分水洗・乾燥させてから塗装してください。防藻・防かび性は繁殖を抑制するものです。
11. 洗浄に薬剤を用いた場合は入念に水洗いし、被塗面が中性であることを確認してください。薬剤が残存するとふくれ・はく離・白化の原因となります。
12. 吸込みの激しい下地では、下塗りを濡れ感・艶が出るまで増し塗りしてください。

**【調合・希釈・かくはん】**

13. 希釈は規定の希釈剤・希釈率を守ってください。過剰希釈は隠ぺい力不足・光沢低下・色相変化・だれの原因となります。現場で一度定めた希釈率は以降も同一とし、溶剤形塗料では指定外の希釈剤を使用しないでください。
14. 使用前に十分にかくはんしてください。濃色・艶調整品・遮熱塗料は顔料や艶消し剤が沈降しやすいため特に入念に。開缶後は一度に使い切り、残った塗料を元の容器に戻さないでください。

**【塗装作業】**

15. 所定の塗り回数・使用量を必ず守ってください。不足すると隠ぺい不良・色相差・点さび・耐久性低下の原因となります。薄膜になりやすいエッジ部は増し塗りしてください。
16. 塗り重ね乾燥時間を守ってください。短いと、ちぢみ・割れ・乾燥不良、長く空きすぎると層間の付着不良の原因となります。
17. ローラー目は同一方向にそろえて仕上げてください。はけ・ローラーは製品ごとに専用とし（水性塗料はナイロンはけ）、その日のうちに洗浄してください。
18. 鮮やかな黄・赤・青・緑系の色相は隠ぺい性が低いため、隠ぺい性の良い共色で下塗りしてください。
19. 塗装しない箇所は事前に養生し、付着した塗料は直ちに拭き取ってください。

**【仕上がり・補修】**

20. 被塗物の形状・膜厚・塗装方法などにより、色相・艶が見本と若干異なって見える場合があります。事前に試し塗りを行ってください。
21. 艶調整品は塗り継ぎで艶むらが生じやすいため、面を切って通し塗りしてください。
22. 補修用に使用塗料のロットを控えておき、同一ロット・同一希釈率・同一塗装方法で補修してください。はけ塗りとローラー塗りが混在すると、仕上がり肌や色相に若干の差が生じます。
23. 濃彩色の塗膜は強くこすると色落ちすることがあります。衣類などが触れる部位への使用は避けてください。

**【適用部位・部材】**

24. シーリング面への塗装は、汚染・はく離・割れ・粘着の原因となるため、原則として行わないでください。やむを得ず行う場合は、ノンブリードタイプのシーリング材を用い、完全硬化後に塗り重ね適合性を確認のうえ塗装してください。
25. 可塑剤を多く含む部材（塩ビ鋼板・軟質塩ビ・ゴムパッキン・合成皮革・ラミネート材など）への塗装は、粘着・軟化・汚染が生じるおそれがあります。
26. ドア・手すりなど人が頻繁に触れる部位、床・家具・遊具への塗装は避けてください。

**【保管・取扱い・廃棄】**

27. 塗料は直射日光・雨を避け、子どもの手の届かない場所に保管してください。塗料は凍結させないでください。容器は横倒しにしないでください。
28. 取扱い時は十分に換気し、必要に応じて保護マスク・保護めがね・保護手袋を着用してください。皮膚に付着した場合は石けん水で洗い落としてください。
29. 塗料・塗料容器・塗装用具などは産業廃棄物として処理してください。洗浄水を排水溝・河川・土壌へ流さないでください。
30. 使用期限は未開封で、水性・水溶性溶剤は製造後6ヶ月、溶剤形は製造後12ヶ月です。

東京ケミテック
Tokyo Chemitech

標準塗装仕様書

1液水性反応硬化形外壁用無機有機ハイブリッド塗料

# トーケミ無機テック[水性タイプ]

## 塗料性状・荷姿

| 塗料名 | 色相 | 艶 | 荷姿 | 混合比（重量） | ポットライフ | 標準塗り面積（2回塗り） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| トーケミ無機テック[水性タイプ] | 標準色48色 | 艶有り3分艶 | 15kg缶、4kg缶 | — | — | 約47～57㎡/15kg 約12～15㎡/4kg |

## 適用基材

| | |
|---|---|
| 外壁 | 窯業系サイディング、金属サイディング、モルタル、ALC、その他各種旧塗膜 |

注）下塗り材は、下地の種類・劣化状況に応じて適切な下塗り材を選定してください。

## 標準塗装仕様（塗り替え）

| 塗装工程 | 塗料名 | 塗り回数 | 使用量(kg/㎡/回) | 塗り重ね乾燥時間(23℃) | 希釈剤 | 希釈率(重量%) | 塗装方法 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 下地調整 | ワイヤーブラシなどで、劣化塗膜・ごみ・ほこり・藻・かびなどの付着物を入念に除去し、高圧洗浄後は十分に乾燥させる。下地の浮き・ひび割れ、欠損、シーリング劣化部などは適切に補修する。 | | | | | | |
| 下塗り | 適用下塗り材※1 | 各下塗り材の標準塗装仕様による | | | | | |
| 上塗り | トーケミ無機テック[水性タイプ] | 2 | 0.13～0.16 | 4時間以上5日以内 | 水道水 | 0～5 | はけ・エアレスウールローラー |

※1 下塗り材は、下地の種類・劣化状況に応じて適切な下塗り材を選定してください。
注）上記の数値は標準のものです。被塗物の形状・素地の状態・気象条件・施工条件などにより多少の幅が生じることがあります。

## 施工上の注意事項

**【本製品の注意事項】**

1. 本製品は超低汚染タイプですが、斜壁・笠木のないパラペット・日の当たらないベランダ内壁など、部位によっては十分な低汚染性を発揮できない場合があります。

**【施工環境・気象条件】**

2. 気温5℃以下、湿度85%以上、被塗物の表面温度が5℃以下の場合、結露のおそれがある場合、屋外で降雨・降雪・強風のおそれがある場合は塗装を避けてください。
3. 乾燥不十分な状態で降雨・結露の影響を受けると、ふくれ・はく離・白化・シミなどが発生するおそれがあります。夜露の早い地域や寒暖差の大きい時期は、早めに作業を終えてください。
4. 絶えず結露が発生する部位・環境での使用は避けてください。水性塗料、水溶性溶剤塗料では塗料中の水溶性成分が表面に溶出し、粘着物として析出することがあります。
5. ALC・軽量モルタル・高断熱型窯業系サイディング・発泡ウレタン使用建材など蓄熱しやすい「高断熱型外壁」では、蓄熱・水分・塗装環境などの条件が重なると、ふくれ・はく離が生じることがあります。躯体含水率が高い場合や漏水の止水処理が不十分な場合も同様です。旧塗膜にふくれがある場合は完全に除去してください。

**【素地調整・下地】**

6. 塗り替えの際は高圧洗浄やブラシなどで付着物・劣化塗膜を十分に除去してください。素地調整が不十分な場合、はく離・光沢不良・色むらなどの原因となります。
7. 高圧洗浄後は十分に乾燥させてから塗装してください。
8. 適用できる旧塗膜は、下地との付着性に問題のない活膜に限ります。光沢の残る旧塗膜や、無機・光触媒・フッ素などで表面処理された窯業系サイディングは、目荒らしのうえ試し塗りで付着性を確認してください。
9. 新設のコンクリート・モルタル面は、pH10以下、表面含水率10%以下まで十分に乾燥させてください。
10. 藻・かびが繁殖している場合は、除去および殺菌処理後に十分水洗・乾燥させてから塗装してください。防藻・防かび性は繁殖を抑制するものです。
11. 洗浄に薬剤を用いた場合は入念に水洗いし、被塗面が中性であることを確認してください。薬剤が残存するとふくれ・はく離・白化の原因となります。
12. 吸込みの激しい下地では、下塗りを濡れ感・艶が出るまで増し塗りしてください。

**【調合・希釈・かくはん】**

13. 希釈は規定の希釈剤・希釈率を守ってください。過剰希釈は隠ぺい力不足・光沢低下・色相変化・だれの原因となります。現場で一度定めた希釈率は以降も同一とし、溶剤形塗料では指定外の希釈剤を使用しないでください。
14. 使用前に十分にかくはんしてください。濃色・艶調整品・遮熱塗料は顔料や艶消し剤が沈降しやすいため特に入念に。開缶後は一度に使い切り、残った塗料を元の容器に戻さないでください。

**【塗装作業】**

15. 所定の塗り回数・使用量を必ず守ってください。不足すると隠ぺい不良・色相差・点さび・耐久性低下の原因となります。薄膜になりやすいエッジ部は増し塗りしてください。
16. 塗り重ね乾燥時間を守ってください。短いと、ちぢみ・割れ・乾燥不良、長く空きすぎると層間の付着不良の原因となります。
17. ローラー目は同一方向にそろえて仕上げてください。はけ・ローラーは製品ごとに専用とし（水性塗料はナイロンはけ）、その日のうちに洗浄してください。
18. 鮮やかな黄・赤・青・緑系の色相は隠ぺい性が低いため、隠ぺい性の良い共色で下塗りしてください。
19. 塗装しない箇所は事前に養生し、付着した塗料は直ちに拭き取ってください。

**【仕上がり・補修】**

20. 被塗物の形状・膜厚・塗装方法などにより、色相・艶が見本と若干異なって見える場合があります。事前に試し塗りを行ってください。
21. 艶調整品は塗り継ぎで艶むらが生じやすいため、面を切って通し塗りしてください。
22. 補修用に使用塗料のロットを控えておき、同一ロット・同一希釈率・同一塗装方法で補修してください。はけ塗りとローラー塗りが混在すると、仕上がり肌や色相に若干の差が生じます。
23. 濃彩色の塗膜は強くこすると色落ちすることがあります。衣類などが触れる部位への使用は避けてください。

**【適用部位・部材】**

24. シーリング面への塗装は、汚染・はく離・割れ・粘着の原因となるため、原則として行わないでください。やむを得ず行う場合は、ノンブリードタイプのシーリング材を用い、完全硬化後に塗り重ね適合性を確認のうえ塗装してください。
25. 可塑剤を多く含む部材（塩ビ鋼板・軟質塩ビ・ゴムパッキン・合成皮革・ラミネート材など）への塗装は、粘着・軟化・汚染が生じるおそれがあります。
26. ドア・手すりなど人が頻繁に触れる部位、床・家具・遊具への塗装は避けてください。

**【保管・取扱い・廃棄】**

27. 塗料は直射日光・雨を避け、子どもの手の届かない場所に保管してください。塗料は凍結させないでください。容器は横倒しにしないでください。
28. 取扱い時は十分に換気し、必要に応じて保護マスク・保護めがね・保護手袋を着用してください。皮膚に付着した場合は石けん水で洗い落としてください。
29. 塗料・塗料容器・塗装用具などは産業廃棄物として処理してください。洗浄水を排水溝・河川・土壌へ流さないでください。
30. 使用期限は未開封で、水性・水溶性溶剤は製造後6ヶ月、溶剤形は製造後12ヶ月です。

東京ケミテック
Tokyo Chemitech

標準塗装仕様書

2液弱溶剤反応硬化形外壁用シリコン塗料

# トーケミシリコンテック [弱溶剤タイプ]

## 塗料性状・荷姿

| 塗料名 | 色相 | 艶 | 荷姿（1セット） | 混合比（重量） | ポットライフ | 標準塗り面積（2回塗り） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| トーケミシリコンテック [弱溶剤タイプ] | 標準色48色 | 艶有り 3分艶 | 14kgセット（主剤12.0kg・硬化剤 2.0kg） 3.5kgセット（主剤3.0kg・硬化剤0.5kg） | 主剤：硬化剤 ＝6：1 | 5時間以内 （23℃） | 約46～56㎡/14kg 約11～14㎡/3.5kg |

## 適用基材

| | |
|---|---|
| 外壁 | 窯業系サイディング、金属サイディング、モルタル、ALC、その他各種旧塗膜 |

注） 下塗り材は、下地の種類・劣化状況に応じて適切な下塗り材を選定してください。

## 標準塗装仕様（塗り替え）

| 塗装工程 | 塗料名 | 塗り回数 | 使用量 (kg/㎡/回) | 塗り重ね乾燥時間 (23℃) | 希釈剤 | 希釈率 (重量%) | 塗装方法 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 下地調整 | ワイヤーブラシなどで、劣化塗膜・ごみ・ほこり・藻・かびなどの付着物を入念に除去し、高圧洗浄後は十分に乾燥させる。 下地の浮き・ひび割れ、欠損、シーリング劣化部などは適切に補修する。 | | | | | | |
| 下塗り | 適用下塗り材※1 | 各下塗り材の標準塗装仕様による | | | | | |
| 上塗り | **トーケミシリコンテック [弱溶剤タイプ]** | 2 | 0.125～0.15 | 4時間以上3日以内 | 塗料用 シンナー | 0～5 | はけ・エアレス ウールローラー |

※1 下塗り材は、下地の種類・劣化状況に応じて適切な下塗り材を選定してください。
注） 上記の数値は標準のものです。被塗物の形状・素地の状態・気象条件・施工条件などにより多少の幅が生じることがあります。

## 施工上の注意事項

**【本製品の注意事項】**

1. 弱溶剤形塗料のため、取扱い時は火気に注意し、消防法・労働安全衛生法などの関係法令を守ってください。

**【施工環境・気象条件】**

2. 気温5℃以下、湿度85%以上、被塗物の表面温度が5℃以下の場合、結露のおそれがある場合、屋外で降雨・降雪・強風のおそれがある場合は塗装を避けてください。
3. 乾燥不十分な状態で降雨・結露の影響を受けると、ふくれ・はく離・白化・シミなどが発生するおそれがあります。夜露の早い地域や寒暖差の大きい時期は、早めに作業を終えてください。
4. 絶えず結露が発生する部位・環境での使用は避けてください。
5. ALC・軽量モルタル・高断熱型窯業系サイディング・発泡ウレタン使用建材など蓄熱しやすい「高断熱型外壁」では、蓄熱・水分・塗装環境などの条件が重なると、ふくれ・はく離が生じることがあります。躯体含水率が高い場合や漏水の止水処理が不十分な場合も同様です。旧塗膜にふくれがある場合は完全に除去してください。

**【素地調整・下地】**

6. 塗り替えの際は高圧洗浄やブラシなどで付着物・劣化塗膜を十分に除去してください。素地調整が不十分な場合、はく離・光沢不良・色むらなどの原因となります。
7. 高圧洗浄後は十分に乾燥させてから塗装してください。
8. 適用できる旧塗膜は、下地との付着性に問題のない活膜に限ります。光沢の残る旧塗膜や、無機・光触媒・フッ素などで表面処理された窯業系サイディングは、目荒らしのうえ試し塗りで付着性を確認してください。
9. 新設のコンクリート・モルタル面は、pH10以下、表面含水率10%以下まで十分に乾燥させてください。
10. 藻・かびが繁殖している場合は、除去および殺菌処理後に十分水洗・乾燥させてから塗装してください。防藻・防かび性は繁殖を抑制するものです。
11. 洗浄に薬剤を用いた場合は入念に水洗いし、被塗面が中性であることを確認してください。薬剤が残存するとふくれ・はく離・白化の原因となります。
12. 吸込みの激しい下地では、下塗りを濡れ感・艶が出るまで増し塗りしてください。

**【調合・希釈・かくはん】**

13. 2液形塗料は主剤と硬化剤を規定の比率で正確に計量し、電動かくはん機で缶底・四隅まで均一に混合してください。混合比の誤りは乾燥不良・付着不良・耐久性低下の原因となります。ポットライフを過ぎた塗料は、外観上使用できる状態でも絶対に使用しないでください。
14. 希釈は規定の希釈剤・希釈率を守ってください。過剰希釈は隠ぺい力不足・光沢低下・色相変化・だれの原因となります。現場で一度定めた希釈率は以降も同一とし、溶剤形塗料では指定外の希釈剤を使用しないでください。
15. 使用前に十分にかくはんしてください。濃色・艶調整品・遮熱塗料は顔料や艶消し剤が沈降しやすいため特に入念に。開缶後は一度に使い切り、残った塗料を元の容器に戻さないでください。

**【塗装作業】**

16. 所定の塗り回数・使用量を必ず守ってください。不足すると隠ぺい不良・色相差・点さび・耐久性低下の原因となります。薄膜になりやすいエッジ部は増し塗りしてください。
17. 塗り重ね乾燥時間を守ってください。短いと、ちぢみ・割れ・乾燥不良、長く空きすぎると層間の付着不良の原因となります。
18. ローラー目は同一方向にそろえて仕上げてください。はけ・ローラーは製品ごとに専用とし（水性塗料はナイロンはけ）、その日のうちに洗浄してください。
19. 鮮やかな黄・赤・青・緑系の色相は隠ぺい性が低いため、隠ぺい性の良い共色で下塗りしてください。
20. 塗装しない箇所は事前に養生し、付着した塗料は直ちに拭き取ってください。

**【仕上がり・補修】**

21. 被塗物の形状・膜厚・塗装方法などにより、色相・艶が見本と若干異なって見える場合があります。事前に試し塗りを行ってください。
22. 艶調整品は塗り継ぎで艶むらが生じやすいため、面を切って通し塗りしてください。
23. 補修用に使用塗料のロットを控えておき、同一ロット・同一希釈率・同一塗装方法で補修してください。はけ塗りとローラー塗りが混在すると、仕上がり肌や色相に若干の差が生じます。
24. 低汚染性は、建物の構造・部位・環境条件などにより十分に発揮されない場合があります。
25. 濃彩色の塗膜は強くこすると色落ちすることがあります。衣類などが触れる部位への使用は避けてください。

**【適用部位・部材】**

26. シーリング面への塗装は、汚染・はく離・割れ・粘着の原因となるため、原則として行わないでください。やむを得ず行う場合は、ノンブリードタイプのシーリング材を用い、完全硬化後に塗り重ね適合性を確認のうえ塗装してください。
27. 可塑剤を多く含む部材（塩ビ鋼板・軟質塩ビ・ゴムパッキン・合成皮革・ラミネート材など）への塗装は、粘着・軟化・汚染が生じるおそれがあります。
28. ドア・手すりなど人が頻繁に触れる部位、床・家具・遊具への塗装は避けてください。

**【保管・取扱い・廃棄】**

29. 塗料は直射日光・雨を避け、子どもの手の届かない場所に保管してください。塗料は凍結させないでください。容器は横倒しにしないでください。
30. 溶剤形塗料・硬化剤は火気厳禁とし、危険物の貯蔵基準に従って保管してください。硬化剤は湿気と反応して変質するため、密栓して保管してください。
31. 取扱い時は十分に換気し、必要に応じて保護マスク・保護めがね・保護手袋を着用してください。皮膚に付着した場合は石けん水で洗い落としてください。
32. 塗料・塗料容器・塗装用具などは産業廃棄物として処理してください。洗浄水を排水溝・河川・土壌へ流さないでください。
33. 使用期限は未開封で、水性・水溶性溶剤は製造後6ヶ月、溶剤形は製造後12ヶ月です。

東京ケミテック
Tokyo Chemitech

標準塗装仕様書

2液弱溶剤反応硬化形外壁用フッ素塗料

# トーケミフッ素テック[弱溶剤タイプ]

## 塗料性状・荷姿

| 塗料名 | 色相 | 艶 | 荷姿（1セット） | 混合比（重量） | ポットライフ | 標準塗り面積（2回塗り） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| トーケミフッ素テック[弱溶剤タイプ] | 標準色48色 | 艶有り<br>3分艶 | 15kgセット（主剤12.5kg・硬化剤2.5kg）<br>6kgセット（主剤5.0kg・硬化剤1.0kg） | 主剤：硬化剤<br>＝5：1 | 5時間以内<br>（23℃） | 約41～62㎡/15kg<br>約16～25㎡/6kg |

## 適用基材

| | |
|---|---|
| 外壁 | 窯業系サイディング、金属サイディング、モルタル、ALC、その他各種旧塗膜 |

注） 下塗り材は、下地の種類・劣化状況に応じて適切な下塗り材を選定してください。

## 標準塗装仕様（塗り替え）

| 塗装工程 | 塗料名 | 塗り回数 | 使用量(kg/㎡/回) | 塗り重ね乾燥時間(23℃) | 希釈剤 | 希釈率(重量%) | 塗装方法 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 下地調整 | ワイヤーブラシなどで、劣化塗膜・ごみ・ほこり・藻・かびなどの付着物を入念に除去し、高圧洗浄後は十分に乾燥させる。<br>下地の浮き・ひび割れ、欠損、シーリング劣化部などは適切に補修する。 | | | | | | |
| 下塗り | 適用下塗り材※1 | 各下塗り材の標準塗装仕様による | | | | | |
| 上塗り | **トーケミフッ素テック[弱溶剤タイプ]** | 2 | 0.12～0.18 | 5時間以上3日以内 | 塗料用シンナー | 0～5 | はけ・エアレス<br>ウールローラー |

※1 下塗り材は、下地の種類・劣化状況に応じて適切な下塗り材を選定してください。
注）上記の数値は標準のものです。被塗物の形状・素地の状態・気象条件・施工条件などにより多少の幅が生じることがあります。

## 施工上の注意事項

**【施工環境・気象条件】**

1. 気温5℃以下、湿度85%以上、被塗物の表面温度が5℃以下の場合、結露のおそれがある場合、屋外で降雨・降雪・強風のおそれがある場合は塗装を避けてください。
2. 乾燥不十分な状態で降雨・結露の影響を受けると、ふくれ・はく離・白化・シミなどが発生するおそれがあります。夜露の早い地域や寒暖差の大きい時期は、早めに作業を終えてください。
3. 絶えず結露が発生する部位・環境での使用は避けてください。
4. ALC・軽量モルタル・高断熱型窯業系サイディング・発泡ウレタン使用建材など蓄熱しやすい「高断熱型外壁」では、蓄熱・水分・塗装環境などの条件が重なると、ふくれ・はく離が生じることがあります。躯体含水率が高い場合や漏水の止水処理が不十分な場合も同様です。旧塗膜にふくれがある場合は完全に除去してください。

**【素地調整・下地】**

5. 塗り替えの際は高圧洗浄やブラシなどで付着物・劣化塗膜を十分に除去してください。素地調整が不十分な場合、はく離・光沢不良・色むらなどの原因となります。
6. 高圧洗浄後は十分に乾燥させてから塗装してください。
7. 適用できる旧塗膜は、下地との付着性に問題のない活膜に限ります。光沢の残る旧塗膜や、無機・光触媒・フッ素などで表面処理された窯業系サイディングは、目荒らしのうえ試し塗りで付着性を確認してください。
8. 新設のコンクリート・モルタル面は、pH10以下、表面含水率10%以下まで十分に乾燥させてください。
9. 藻・かびが繁殖している場合は、除去および殺菌処理後に十分水洗・乾燥させてから塗装してください。防藻・防かび性は繁殖を抑制するものです。
10. 洗浄に薬剤を用いた場合は入念に水洗いし、被塗面が中性であることを確認してください。薬剤が残存するとふくれ・はく離・白化の原因となります。
11. 吸込みの激しい下地では、下塗りを濡れ感・艶が出るまで増し塗りしてください。

**【調合・希釈・かくはん】**

12. 2液形塗料は主剤と硬化剤を規定の比率で正確に計量し、電動かくはん機で缶底・四隅まで均一に混合してください。混合比の誤りは乾燥不良・付着不良・耐久性低下の原因となります。ポットライフを過ぎた塗料は、外観上使用できる状態でも絶対に使用しないでください。
13. 希釈は規定の希釈剤・希釈率を守ってください。過剰希釈は隠ぺい力不足・光沢低下・色相変化・だれの原因となります。現場で一度定めた希釈率は以降も同一とし、溶剤形塗料では指定外の希釈剤を使用しないでください。
14. 使用前に十分にかくはんしてください。濃色・艶調整品・遮熱塗料は顔料や艶消し剤が沈降しやすいため特に入念に。開缶後は一度に使い切り、残った塗料を元の容器に戻さないでください。

**【塗装作業】**

15. 所定の塗り回数・使用量を必ず守ってください。不足すると隠ぺい不良・色相差・点さび・耐久性低下の原因となります。薄膜になりやすいエッジ部は増し塗りしてください。
16. 塗り重ね乾燥時間を守ってください。短いと、ちぢみ・割れ・乾燥不良、長く空きすぎると層間の付着不良の原因となります。
17. ローラー目は同一方向にそろえて仕上げてください。はけ・ローラーは製品ごとに専用とし（水性塗料はナイロンはけ）、その日のうちに洗浄してください。
18. 鮮やかな黄・赤・青・緑系の色相は隠ぺい性が低いため、隠ぺい性の良い共色で下塗りしてください。
19. 塗装しない箇所は事前に養生し、付着した塗料は直ちに拭き取ってください。

**【仕上がり・補修】**

20. 被塗物の形状・膜厚・塗装方法などにより、色相・艶が見本と若干異なって見える場合があります。事前に試し塗りを行ってください。
21. 艶調整品は塗り継ぎで艶むらが生じやすいため、面を切って通し塗りしてください。
22. 補修用に使用塗料のロットを控えておき、同一ロット・同一希釈率・同一塗装方法で補修してください。はけ塗りとローラー塗りが混在すると、仕上がり肌や色相に若干の差が生じます。
23. 低汚染性は、建物の構造・部位・環境条件などにより十分に発揮されない場合があります。
24. 濃彩色の塗膜は強くこすると色落ちすることがあります。衣類などが触れる部位への使用は避けてください。

**【適用部位・部材】**

25. シーリング面への塗装は、汚染・はく離・割れ・粘着の原因となるため、原則として行わないでください。やむを得ず行う場合は、ノンブリードタイプのシーリング材を用い、完全硬化後に塗り重ね適合性を確認のうえ塗装してください。
26. 可塑剤を多く含む部材（塩ビ鋼板・軟質塩ビ・ゴムパッキン・合成皮革・ラミネート材など）への塗装は、粘着・軟化・汚染が生じるおそれがあります。
27. ドア・手すりなど人が頻繁に触れる部位、床・家具・遊具への塗装は避けてください。

**【保管・取扱い・廃棄】**

28. 塗料は直射日光・雨を避け、子どもの手の届かない場所に保管してください。塗料は凍結させないでください。容器は横倒しにしないでください。
29. 溶剤形塗料・硬化剤は火気厳禁とし、危険物の貯蔵基準に従って保管してください。硬化剤は湿気と反応して変質するため、密栓して保管してください。
30. 取扱い時は十分に換気し、必要に応じて保護マスク・保護めがね・保護手袋を着用してください。皮膚に付着した場合は石けん水で洗い落としてください。
31. 塗料・塗料容器・塗装用具などは産業廃棄物として処理してください。洗浄水を排水溝・河川・土壌へ流さないでください。
32. 使用期限は未開封で、水性・水溶性溶剤は製造後6ヶ月、溶剤形は製造後12ヶ月です。

東京ケミテック
Tokyo Chemitech

標準塗装仕様書

2液弱溶剤反応硬化形外壁用無機塗料

# トーケミ無機テック[弱溶剤タイプ]

## 塗料性状・荷姿

| 塗料名 | 色相 | 艶 | 荷姿（1セット） | 混合比（重量） | ポットライフ | 標準塗り面積（2回塗り） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| トーケミ無機テック[弱溶剤タイプ] | 標準色48色 | 艶有り 3分艶 | 15kgセット（主剤12.5kg・硬化剤2.5kg）<br>6kgセット（主剤5.0kg・硬化剤1.0kg） | 主剤：硬化剤＝5：1 | 5時間以内（23℃） | 約41～62㎡/15kg<br>約16～25㎡/6kg |

## 適用基材

| | |
|---|---|
| 外壁 | 窯業系サイディング、金属サイディング、モルタル、ALC、その他各種旧塗膜 |

注）下塗り材は、下地の種類・劣化状況に応じて適切な下塗り材を選定してください。

## 標準塗装仕様（塗り替え）

| 塗装工程 | 塗料名 | 塗り回数 | 使用量(kg/㎡/回) | 塗り重ね乾燥時間(23℃) | 希釈剤 | 希釈率(重量%) | 塗装方法 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 下地調整 | ワイヤーブラシなどで、劣化塗膜・ごみ・ほこり・藻・かびなどの付着物を入念に除去し、高圧洗浄後は十分に乾燥させる。<br>下地の浮き・ひび割れ、欠損、シーリング劣化部などは適切に補修する。 | | | | | | |
| 下塗り | 適用下塗り材※1 | 各下塗り材の標準塗装仕様による | | | | | |
| 上塗り | **トーケミ無機テック[弱溶剤タイプ]** | 2 | 0.12～0.18 | 5時間以上3日以内 | 塗料用シンナー | 0～5 | はけ・エアレス<br>ウールローラー |

※1 下塗り材は、下地の種類・劣化状況に応じて適切な下塗り材を選定してください。
注）上記の数値は標準のものです。被塗物の形状・素地の状態・気象条件・施工条件などにより多少の幅が生じることがあります。

## 施工上の注意事項

**【施工環境・気象条件】**

1. 気温5℃以下、湿度85%以上、被塗物の表面温度が5℃以下の場合、結露のおそれがある場合、屋外で降雨・降雪・強風のおそれがある場合は塗装を避けてください。
2. 乾燥不十分な状態で降雨・結露の影響を受けると、ふくれ・はく離・白化・シミなどが発生するおそれがあります。夜露の早い地域や寒暖差の大きい時期は、早めに作業を終えてください。
3. 絶えず結露が発生する部位・環境での使用は避けてください。
4. ALC・軽量モルタル・高断熱型窯業系サイディング・発泡ウレタン使用建材など蓄熱しやすい「高断熱型外壁」では、蓄熱・水分・塗装環境などの条件が重なると、ふくれ・はく離が生じることがあります。躯体含水率が高い場合や漏水の止水処理が不十分な場合も同様です。旧塗膜にふくれがある場合は完全に除去してください。

**【素地調整・下地】**

5. 塗り替えの際は高圧洗浄やブラシなどで付着物・劣化塗膜を十分に除去してください。素地調整が不十分な場合、はく離・光沢不良・色むらなどの原因となります。
6. 高圧洗浄後は十分に乾燥させてから塗装してください。
7. 適用できる旧塗膜は、下地との付着性に問題のない活膜に限ります。光沢の残る旧塗膜や、無機・光触媒・フッ素などで表面処理された窯業系サイディングは、目荒らしのうえ試し塗りで付着性を確認してください。
8. 新設のコンクリート・モルタル面は、pH10以下、表面含水率10%以下まで十分に乾燥させてください。
9. 藻・かびが繁殖している場合は、除去および殺菌処理後に十分水洗・乾燥させてから塗装してください。防藻・防かび性は繁殖を抑制するものです。
10. 洗浄に薬剤を用いた場合は入念に水洗いし、被塗面が中性であることを確認してください。薬剤が残存するとふくれ・はく離・白化の原因となります。
11. 吸込みの激しい下地では、下塗りを濡れ感・艶が出るまで増し塗りしてください。

**【調合・希釈・かくはん】**

12. 2液形塗料は主剤と硬化剤を規定の比率で正確に計量し、電動かくはん機で缶底・四隅まで均一に混合してください。混合比の誤りは乾燥不良・付着不良・耐久性低下の原因となります。ポットライフを過ぎた塗料は、外観上使用できる状態でも絶対に使用しないでください。
13. 希釈は規定の希釈剤・希釈率を守ってください。過剰希釈は隠ぺい力不足・光沢低下・色相変化・だれの原因となります。現場で一度定めた希釈率は以降も同一とし、溶剤形塗料では指定外の希釈剤を使用しないでください。
14. 使用前に十分にかくはんしてください。濃色・艶調整品・遮熱塗料は顔料や艶消し剤が沈降しやすいため特に入念に。開缶後は一度に使い切り、残った塗料を元の容器に戻さないでください。

**【塗装作業】**

15. 所定の塗り回数・使用量を必ず守ってください。不足すると隠ぺい不良・色相差・点さび・耐久性低下の原因となります。薄膜になりやすいエッジ部は増し塗りしてください。
16. 塗り重ね乾燥時間を守ってください。短いと、ちぢみ・割れ・乾燥不良、長く空きすぎると層間の付着不良の原因となります。
17. ローラー目は同一方向にそろえて仕上げてください。はけ・ローラーは製品ごとに専用とし（水性塗料はナイロンはけ）、その日のうちに洗浄してください。
18. 鮮やかな黄・赤・青・緑系の色相は隠ぺい性が低いため、隠ぺい性の良い共色で下塗りしてください。
19. 塗装しない箇所は事前に養生し、付着した塗料は直ちに拭き取ってください。

**【仕上がり・補修】**

20. 被塗物の形状・膜厚・塗装方法などにより、色相・艶が見本と若干異なって見える場合があります。事前に試し塗りを行ってください。
21. 艶調整品は塗り継ぎで艶むらが生じやすいため、面を切って通し塗りしてください。
22. 補修用に使用塗料のロットを控えておき、同一ロット・同一希釈率・同一塗装方法で補修してください。はけ塗りとローラー塗りが混在すると、仕上がり肌や色相に若干の差が生じます。
23. 低汚染性は、建物の構造・部位・環境条件などにより十分に発揮されない場合があります。
24. 濃彩色の塗膜は強くこすると色落ちすることがあります。衣類などが触れる部位への使用は避けてください。

**【適用部位・部材】**

25. シーリング面への塗装は、汚染・はく離・割れ・粘着の原因となるため、原則として行わないでください。やむを得ず行う場合は、ノンブリードタイプのシーリング材を用い、完全硬化後に塗り重ね適合性を確認のうえ塗装してください。
26. 可塑剤を多く含む部材（塩ビ鋼板・軟質塩ビ・ゴムパッキン・合成皮革・ラミネート材など）への塗装は、粘着・軟化・汚染が生じるおそれがあります。
27. ドア・手すりなど人が頻繁に触れる部位、床・家具・遊具への塗装は避けてください。

**【保管・取扱い・廃棄】**

28. 塗料は直射日光・雨を避け、子どもの手の届かない場所に保管してください。塗料は凍結させないでください。容器は横倒しにしないでください。
29. 溶剤形塗料・硬化剤は火気厳禁とし、危険物の貯蔵基準に従って保管してください。硬化剤は湿気と反応して変質するため、密栓して保管してください。
30. 取扱い時は十分に換気し、必要に応じて保護マスク・保護めがね・保護手袋を着用してください。皮膚に付着した場合は石けん水で洗い落としてください。
31. 塗料・塗料容器・塗装用具などは産業廃棄物として処理してください。洗浄水を排水溝・河川・土壌へ流さないでください。
32. 使用期限は未開封で、水性・水溶性溶剤は製造後6ヶ月、溶剤形は製造後12ヶ月です。

東京ケミテック
Tokyo Chemitech

標準塗装仕様書

2液水溶性溶剤高耐候形外壁用シリコン塗料

# トーケミシリコンテック [水溶性溶剤タイプ]

## 塗料性状・荷姿

| 塗料名 | 色相 | 艶 | 荷姿（1セット） | 混合比（重量） | ポットライフ | 標準塗り面積（2回塗り） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| トーケミシリコンテック [水溶性溶剤タイプ] | 標準色48色 | 艶有り 3分艶 | 12.8kgセット（主剤12.0kg・硬化剤0.8kg） 6.4kgセット（主剤6.0kg・硬化剤0.4kg） | 主剤：硬化剤 ＝15：1 | 4時間以内 （23℃） | 約40～53㎡/12.8kg 約20～26㎡/6.4kg |

## 適用基材

| | |
|---|---|
| 外壁 | 窯業系サイディング、金属サイディング、モルタル、ALC、その他各種旧塗膜 |

注） 下塗り材は、下地の種類・劣化状況に応じて適切な下塗り材を選定してください。

## 標準塗装仕様（塗り替え）

| 塗装工程 | 塗料名 | 塗り回数 | 使用量 (kg/㎡/回) | 塗り重ね乾燥時間 (23℃) | 希釈剤 | 希釈率 (重量%) | 塗装方法 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 下地調整 | ワイヤーブラシなどで、劣化塗膜・ごみ・ほこり・藻・かびなどの付着物を入念に除去し、高圧洗浄後は十分に乾燥させる。<br>下地の浮き・ひび割れ、欠損、シーリング劣化部などは適切に補修する。 | | | | | | |
| 下塗り | 適用下塗り材※1 | 各下塗り材の標準塗装仕様による | | | | | |
| 上塗り | トーケミシリコンテック [水溶性溶剤タイプ] | 2 | 0.12～0.16 | 4時間以上5日以内 | 水道水 | 0～5 | はけ・エアレス ウールローラー |

※1 下塗り材は、下地の種類・劣化状況に応じて適切な下塗り材を選定してください。
注）上記の数値は標準のものです。被塗物の形状・素地の状態・気象条件・施工条件などにより多少の幅が生じることがあります。

## 施工上の注意事項

**【本製品の注意事項】**
1. かくはん初期は硬化剤が主剤となじみにくく、手作業のかくはんでは混合不良となる場合があります。必ず電動かくはん機を使用してください。

**【施工環境・気象条件】**
2. 気温5℃以下、湿度85%以上、被塗物の表面温度が5℃以下の場合、結露のおそれがある場合、屋外で降雨・降雪・強風のおそれがある場合は塗装を避けてください。
3. 乾燥不十分な状態で降雨・結露の影響を受けると、ふくれ・はく離・白化・シミなどが発生するおそれがあります。夜露の早い地域や寒暖差の大きい時期は、早めに作業を終えてください。
4. 絶えず結露が発生する部位・環境での使用は避けてください。水性塗料、水溶性溶剤塗料では塗料中の水溶性成分が表面に溶出し、粘着物として析出することがあります。
5. ALC・軽量モルタル・高断熱型窯業系サイディング・発泡ウレタン使用建材など蓄熱しやすい「高断熱型外壁」では、蓄熱・水分・塗装環境などの条件が重なると、ふくれ・はく離が生じることがあります。躯体含水率が高い場合や漏水の止水処理が不十分な場合も同様です。旧塗膜にふくれがある場合は完全に除去してください。

**【素地調整・下地】**
6. 塗り替えの際は高圧洗浄やブラシなどで付着物・劣化塗膜を十分に除去してください。素地調整が不十分な場合、はく離・光沢不良・色むらなどの原因となります。
7. 高圧洗浄後は十分に乾燥させてから塗装してください。
8. 適用できる旧塗膜は、下地との付着性に問題のない活膜に限ります。光沢の残る旧塗膜や、無機・光触媒・フッ素などで表面処理された窯業系サイディングは、目荒らしのうえ試し塗りで付着性を確認してください。
9. 新設のコンクリート・モルタル面は、pH10以下、表面含水率10%以下まで十分に乾燥させてください。
10. 藻・かびが繁殖している場合は、除去および殺菌処理後に十分水洗・乾燥させてから塗装してください。防藻・防かび性は繁殖を抑制するものです。
11. 洗浄に薬剤を用いた場合は入念に水洗いし、被塗面が中性であることを確認してください。薬剤が残存するとふくれ・はく離・白化の原因となります。
12. 吸込みの激しい下地では、下塗りを濡れ感・艶が出るまで増し塗りしてください。

**【調合・希釈・かくはん】**
13. 2液形塗料は主剤と硬化剤を規定の比率で正確に計量し、電動かくはん機で缶底・四隅まで均一に混合してください。混合比の誤りは乾燥不良・付着不良・耐久性低下の原因となります。ポットライフを過ぎた塗料は、外観上使用できる状態でも絶対に使用しないでください。
14. 希釈は規定の希釈剤・希釈率を守ってください。過剰希釈は隠ぺい力不足・光沢低下・色相変化・だれの原因となります。現場で一度定めた希釈率は以降も同一とし、溶剤形塗料では指定外の希釈剤を使用しないでください。
15. 使用前に十分にかくはんしてください。濃色・艶調整品・遮熱塗料は顔料や艶消し剤が沈降しやすいため特に入念に。開缶後は一度に使い切り、残った塗料を元の容器に戻さないでください。

**【塗装作業】**
16. 所定の塗り回数・使用量を必ず守ってください。不足すると隠ぺい不良・色相差・点さび・耐久性低下の原因となります。薄膜になりやすいエッジ部は増し塗りしてください。
17. 塗り重ね乾燥時間を守ってください。短いと、ちぢみ・割れ・乾燥不良、長く空きすぎると層間の付着不良の原因となります。
18. ローラー目は同一方向にそろえて仕上げてください。はけ・ローラーは製品ごとに専用とし（水性塗料はナイロンはけ）、その日のうちに洗浄してください。
19. 鮮やかな黄・赤・青・緑系の色相は隠ぺい性が低いため、隠ぺい性の良い共色で下塗りしてください。
20. 塗装しない箇所は事前に養生し、付着した塗料は直ちに拭き取ってください。

**【仕上がり・補修】**
21. 被塗物の形状・膜厚・塗装方法などにより、色相・艶が見本と若干異なって見える場合があります。事前に試し塗りを行ってください。
22. 艶調整品は塗り継ぎで艶むらが生じやすいため、面を切って通し塗りしてください。
23. 補修用に使用塗料のロットを控えておき、同一ロット・同一希釈率・同一塗装方法で補修してください。はけ塗りとローラー塗りが混在すると、仕上がり肌や色相に若干の差が生じます。
24. 低汚染性は、建物の構造・部位・環境条件などにより十分に発揮されない場合があります。
25. 濃彩色の塗膜は強くこすると色落ちすることがあります。衣類などが触れる部位への使用は避けてください。

**【適用部位・部材】**
26. シーリング面への塗装は、汚染・はく離・割れ・粘着の原因となるため、原則として行わないでください。やむを得ず行う場合は、ノンブリードタイプのシーリング材を用い、完全硬化後に塗り重ね適合性を確認のうえ塗装してください。
27. 可塑剤を多く含む部材（塩ビ鋼板・軟質塩ビ・ゴムパッキン・合成皮革・ラミネート材など）への塗装は、粘着・軟化・汚染が生じるおそれがあります。
28. ドア・手すりなど人が頻繁に触れる部位、床・家具・遊具への塗装は避けてください。

**【保管・取扱い・廃棄】**
29. 塗料は直射日光・雨を避け、子どもの手の届かない場所に保管してください。塗料は凍結させないでください。容器は横倒しにしないでください。
30. 溶剤形塗料・硬化剤は火気厳禁とし、危険物の貯蔵基準に従って保管してください。硬化剤は湿気と反応して変質するため、密栓して保管してください。
31. 取扱い時は十分に換気し、必要に応じて保護マスク・保護めがね・保護手袋を着用してください。皮膚に付着した場合は石けん水で洗い落としてください。
32. 塗料・塗料容器・塗装用具などは産業廃棄物として処理してください。洗浄水を排水溝・河川・土壌へ流さないでください。
33. 使用期限は未開封で、水性・水溶性溶剤は製造後6ヶ月、溶剤形は製造後12ヶ月です。

東京ケミテック
Tokyo Chemitech

標準塗装仕様書

2液水溶性溶剤高耐候形外壁用フッ素塗料

# トーケミフッ素テック[水溶性溶剤タイプ]

## 塗料性状・荷姿

| 塗料名 | 色相 | 艶 | 荷姿（1セット） | 混合比（重量） | ポットライフ | 標準塗り面積（2回塗り） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| トーケミフッ素テック[水溶性溶剤タイプ] | 標準色48色 | 艶有り<br>3分艶 | 12.8kgセット（主剤12.0kg・硬化剤0.8kg）<br>6.4kgセット（主剤6.0kg・硬化剤0.4kg） | 主剤：硬化剤<br>＝15：1 | 4時間以内<br>（23℃） | 約40～53㎡/12.8kg<br>約20～26㎡/6.4kg |

## 適用基材

| | |
|---|---|
| 外壁 | 窯業系サイディング、金属サイディング、モルタル、ALC、その他各種旧塗膜 |

注） 下塗り材は、下地の種類・劣化状況に応じて適切な下塗り材を選定してください。

## 標準塗装仕様（塗り替え）

| 塗装工程 | 塗料名 | 塗り回数 | 使用量(kg/㎡/回) | 塗り重ね乾燥時間(23℃) | 希釈剤 | 希釈率(重量%) | 塗装方法 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 下地調整 | ワイヤーブラシなどで、劣化塗膜・ごみ・ほこり・藻・かびなどの付着物を入念に除去し、高圧洗浄後は十分に乾燥させる。<br>下地の浮き・ひび割れ、欠損、シーリング劣化部などは適切に補修する。 | | | | | | |
| 下塗り | 適用下塗り材※1 | 各下塗り材の標準塗装仕様による | | | | | |
| 上塗り | **トーケミフッ素テック[水溶性溶剤タイプ]** | 2 | 0.12～0.16 | 4時間以上5日以内 | 水道水 | 0～5 | はけ・エアレス<br>ウールローラー |

※1 下塗り材は、下地の種類・劣化状況に応じて適切な下塗り材を選定してください。
注）上記の数値は標準のものです。被塗物の形状・素地の状態・気象条件・施工条件などにより多少の幅が生じることがあります。

## 施工上の注意事項

**【本製品の注意事項】**
1. かくはん初期は硬化剤が主剤となじみにくく、手作業のかくはんでは混合不良となる場合があります。必ず電動かくはん機を使用してください。

**【施工環境・気象条件】**
2. 気温5℃以下、湿度85%以上、被塗物の表面温度が5℃以下の場合、結露のおそれがある場合、屋外で降雨・降雪・強風のおそれがある場合は塗装を避けてください。
3. 乾燥不十分な状態で降雨・結露の影響を受けると、ふくれ・はく離・白化・シミなどが発生するおそれがあります。夜露の早い地域や寒暖差の大きい時期は、早めに作業を終えてください。
4. 絶えず結露が発生する部位・環境での使用は避けてください。水性塗料、水溶性溶剤塗料では塗料中の水溶性成分が表面に溶出し、粘着物として析出することがあります。
5. ALC・軽量モルタル・高断熱型窯業系サイディング・発泡ウレタン使用建材など蓄熱しやすい「高断熱型外壁」では、蓄熱・水分・塗装環境などの条件が重なると、ふくれ・はく離が生じることがあります。躯体含水率が高い場合や漏水の止水処理が不十分な場合も同様です。旧塗膜にふくれがある場合は完全に除去してください。

**【素地調整・下地】**
6. 塗り替えの際は高圧洗浄やブラシなどで付着物・劣化塗膜を十分に除去してください。素地調整が不十分な場合、はく離・光沢不良・色むらなどの原因となります。
7. 高圧洗浄後は十分に乾燥させてから塗装してください。
8. 適用できる旧塗膜は、下地との付着性に問題のない活膜に限ります。光沢の残る旧塗膜や、無機・光触媒・フッ素などで表面処理された窯業系サイディングは、目荒らしのうえ試し塗りで付着性を確認してください。
9. 新設のコンクリート・モルタル面は、pH10以下、表面含水率10%以下まで十分に乾燥させてください。
10. 藻・かびが繁殖している場合は、除去および殺菌処理後に十分水洗・乾燥させてから塗装してください。防藻・防かび性は繁殖を抑制するものです。
11. 洗浄に薬剤を用いた場合は入念に水洗いし、被塗面が中性であることを確認してください。薬剤が残存するとふくれ・はく離・白化の原因となります。
12. 吸込みの激しい下地では、下塗りを濡れ感・艶が出るまで増し塗りしてください。

**【調合・希釈・かくはん】**
13. 2液形塗料は主剤と硬化剤を規定の比率で正確に計量し、電動かくはん機で缶底・四隅まで均一に混合してください。混合比の誤りは乾燥不良・付着不良・耐久性低下の原因となります。ポットライフを過ぎた塗料は、外観上使用できる状態でも絶対に使用しないでください。
14. 希釈は規定の希釈剤・希釈率を守ってください。過剰希釈は隠ぺい力不足・光沢低下・色相変化・だれの原因となります。現場で一度定めた希釈率は以降も同一とし、溶剤形塗料では指定外の希釈剤を使用しないでください。
15. 使用前に十分にかくはんしてください。濃色・艶調整品・遮熱塗料は顔料や艶消し剤が沈降しやすいため特に入念に。開缶後は一度に使い切り、残った塗料を元の容器に戻さないでください。

**【塗装作業】**
16. 所定の塗り回数・使用量を必ず守ってください。不足すると隠ぺい不良・色相差・点さび・耐久性低下の原因となります。薄膜になりやすいエッジ部は増し塗りしてください。
17. 塗り重ね乾燥時間を守ってください。短いと、ちぢみ・割れ・乾燥不良、長く空きすぎると層間の付着不良の原因となります。
18. ローラー目は同一方向にそろえて仕上げてください。はけ・ローラーは製品ごとに専用とし（水性塗料はナイロンはけ）、その日のうちに洗浄してください。
19. 鮮やかな黄・赤・青・緑系の色相は隠ぺい性が低いため、隠ぺい性の良い共色で下塗りしてください。
20. 塗装しない箇所は事前に養生し、付着した塗料は直ちに拭き取ってください。

**【仕上がり・補修】**
21. 被塗物の形状・膜厚・塗装方法などにより、色相・艶が見本と若干異なって見える場合があります。事前に試し塗りを行ってください。
22. 艶調整品は塗り継ぎで艶むらが生じやすいため、面を切って通し塗りしてください。
23. 補修用に使用塗料のロットを控えておき、同一ロット・同一希釈率・同一塗装方法で補修してください。はけ塗りとローラー塗りが混在すると、仕上がり肌や色相に若干の差が生じます。
24. 低汚染性は、建物の構造・部位・環境条件などにより十分に発揮されない場合があります。
25. 濃彩色の塗膜は強くこすると色落ちすることがあります。衣類などが触れる部位への使用は避けてください。

**【適用部位・部材】**
26. シーリング面への塗装は、汚染・はく離・割れ・粘着の原因となるため、原則として行わないでください。やむを得ず行う場合は、ノンブリードタイプのシーリング材を用い、完全硬化後に塗り重ね適合性を確認のうえ塗装してください。
27. 可塑剤を多く含む部材（塩ビ鋼板・軟質塩ビ・ゴムパッキン・合成皮革・ラミネート材など）への塗装は、粘着・軟化・汚染が生じるおそれがあります。
28. ドア・手すりなど人が頻繁に触れる部位、床・家具・遊具への塗装は避けてください。

**【保管・取扱い・廃棄】**
29. 塗料は直射日光・雨を避け、子どもの手の届かない場所に保管してください。塗料は凍結させないでください。容器は横倒しにしないでください。
30. 溶剤形塗料・硬化剤は火気厳禁とし、危険物の貯蔵基準に従って保管してください。硬化剤は湿気と反応して変質するため、密栓して保管してください。
31. 取扱い時は十分に換気し、必要に応じて保護マスク・保護めがね・保護手袋を着用してください。皮膚に付着した場合は石けん水で洗い落としてください。
32. 塗料・塗料容器・塗装用具などは産業廃棄物として処理してください。洗浄水を排水溝・河川・土壌へ流さないでください。
33. 使用期限は未開封で、水性・水溶性溶剤は製造後6ヶ月、溶剤形は製造後12ヶ月です。

東京ケミテック
Tokyo Chemitech

標準塗装仕様書

2液水溶性溶剤高耐候形外壁用無機塗料

# トーケミ無機テック[水溶性溶剤タイプ]

## 塗料性状・荷姿

| 塗料名 | 色相 | 艶 | 荷姿（1セット） | 混合比（重量） | ポットライフ | 標準塗り面積（2回塗り） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| トーケミ無機テック[水溶性溶剤タイプ] | 標準色48色 | 艶有り 3分艶 | 12.8kgセット（主剤12.0kg・硬化剤0.8kg）<br>6.4kgセット（主剤6.0kg・硬化剤0.4kg） | 主剤：硬化剤＝15：1 | 4時間以内（23℃） | 約40～53㎡/12.8kg<br>約20～26㎡/6.4kg |

## 適用基材

| | |
|---|---|
| 外壁 | 窯業系サイディング、金属サイディング、モルタル、ALC、その他各種旧塗膜 |

注）下塗り材は、下地の種類・劣化状況に応じて適切な下塗り材を選定してください。

## 標準塗装仕様（塗り替え）

| 塗装工程 | 塗料名 | 塗り回数 | 使用量(kg/㎡/回) | 塗り重ね乾燥時間(23℃) | 希釈剤 | 希釈率(重量%) | 塗装方法 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 下地調整 | ワイヤーブラシなどで、劣化塗膜・ごみ・ほこり・藻・かびなどの付着物を入念に除去し、高圧洗浄後は十分に乾燥させる。<br>下地の浮き・ひび割れ、欠損、シーリング劣化部などは適切に補修する。 | | | | | | |
| 下塗り | 適用下塗り材※1 | 各下塗り材の標準塗装仕様による | | | | | |
| 上塗り | **トーケミ無機テック[水溶性溶剤タイプ]** | 2 | 0.12～0.16 | 4時間以上5日以内 | 水道水 | 0～5 | はけ・エアレス<br>ウールローラー |

※1 下塗り材は、下地の種類・劣化状況に応じて適切な下塗り材を選定してください。
注）上記の数値は標準のものです。被塗物の形状・素地の状態・気象条件・施工条件などにより多少の幅が生じることがあります。

## 施工上の注意事項

**【本製品の注意事項】**
1. かくはん初期は硬化剤が主剤となじみにくく、手作業のかくはんでは混合不良となる場合があります。必ず電動かくはん機を使用してください。

**【施工環境・気象条件】**
2. 気温5℃以下、湿度85%以上、被塗物の表面温度が5℃以下の場合、結露のおそれがある場合、屋外で降雨・降雪・強風のおそれがある場合は塗装を避けてください。
3. 乾燥不十分な状態で降雨・結露の影響を受けると、ふくれ・はく離・白化・シミなどが発生するおそれがあります。夜露の早い地域や寒暖差の大きい時期は、早めに作業を終えてください。
4. 絶えず結露が発生する部位・環境での使用は避けてください。水性塗料、水溶性溶剤塗料では塗料中の水溶性成分が表面に溶出し、粘着物として析出することがあります。
5. ALC・軽量モルタル・高断熱型窯業系サイディング・発泡ウレタン使用建材など蓄熱しやすい「高断熱型外壁」では、蓄熱・水分・塗装環境などの条件が重なると、ふくれ・はく離が生じることがあります。躯体含水率が高い場合や漏水の止水処理が不十分な場合も同様です。旧塗膜にふくれがある場合は完全に除去してください。

**【素地調整・下地】**
6. 塗り替えの際は高圧洗浄やブラシなどで付着物・劣化塗膜を十分に除去してください。素地調整が不十分な場合、はく離・光沢不良・色むらなどの原因となります。
7. 高圧洗浄後は十分に乾燥させてから塗装してください。
8. 適用できる旧塗膜は、下地との付着性に問題のない活膜に限ります。光沢の残る旧塗膜や、無機・光触媒・フッ素などで表面処理された窯業系サイディングは、目荒らしのうえ試し塗りで付着性を確認してください。
9. 新設のコンクリート・モルタル面は、pH10以下、表面含水率10%以下まで十分に乾燥させてください。
10. 藻・かびが繁殖している場合は、除去および殺菌処理後に十分水洗・乾燥させてから塗装してください。防藻・防かび性は繁殖を抑制するものです。
11. 洗浄に薬剤を用いた場合は入念に水洗いし、被塗面が中性であることを確認してください。薬剤が残存するとふくれ・はく離・白化の原因となります。
12. 吸込みの激しい下地では、下塗りを濡れ感・艶が出るまで増し塗りしてください。

**【調合・希釈・かくはん】**
13. 2液形塗料は主剤と硬化剤を規定の比率で正確に計量し、電動かくはん機で缶底・四隅まで均一に混合してください。混合比の誤りは乾燥不良・付着不良・耐久性低下の原因となります。ポットライフを過ぎた塗料は、外観上使用できる状態でも絶対に使用しないでください。
14. 希釈は規定の希釈剤・希釈率を守ってください。過剰希釈は隠ぺい力不足・光沢低下・色相変化・だれの原因となります。現場で一度定めた希釈率は以降も同一とし、溶剤形塗料では指定外の希釈剤を使用しないでください。
15. 使用前に十分にかくはんしてください。濃色・艶調整品・遮熱塗料は顔料や艶消し剤が沈降しやすいため特に入念に。開缶後は一度に使い切り、残った塗料を元の容器に戻さないでください。

**【塗装作業】**
16. 所定の塗り回数・使用量を必ず守ってください。不足すると隠ぺい不良・色相差・点さび・耐久性低下の原因となります。薄膜になりやすいエッジ部は増し塗りしてください。
17. 塗り重ね乾燥時間を守ってください。短いと、ちぢみ・割れ・乾燥不良、長く空きすぎると層間の付着不良の原因となります。
18. ローラー目は同一方向にそろえて仕上げてください。はけ・ローラーは製品ごとに専用とし（水性塗料はナイロンはけ）、その日のうちに洗浄してください。
19. 鮮やかな黄・赤・青・緑系の色相は隠ぺい性が低いため、隠ぺい性の良い共色で下塗りしてください。
20. 塗装しない箇所は事前に養生し、付着した塗料は直ちに拭き取ってください。

**【仕上がり・補修】**
21. 被塗物の形状・膜厚・塗装方法などにより、色相・艶が見本と若干異なって見える場合があります。事前に試し塗りを行ってください。
22. 艶調整品は塗り継ぎで艶むらが生じやすいため、面を切って通し塗りしてください。
23. 補修用に使用塗料のロットを控えておき、同一ロット・同一希釈率・同一塗装方法で補修してください。はけ塗りとローラー塗りが混在すると、仕上がり肌や色相に若干の差が生じます。
24. 低汚染性は、建物の構造・部位・環境条件などにより十分に発揮されない場合があります。
25. 濃彩色の塗膜は強くこすると色落ちすることがあります。衣類などが触れる部位への使用は避けてください。

**【適用部位・部材】**
26. シーリング面への塗装は、汚染・はく離・割れ・粘着の原因となるため、原則として行わないでください。やむを得ず行う場合は、ノンブリードタイプのシーリング材を用い、完全硬化後に塗り重ね適合性を確認のうえ塗装してください。
27. 可塑剤を多く含む部材（塩ビ鋼板・軟質塩ビ・ゴムパッキン・合成皮革・ラミネート材など）への塗装は、粘着・軟化・汚染が生じるおそれがあります。
28. ドア・手すりなど人が頻繁に触れる部位、床・家具・遊具への塗装は避けてください。

**【保管・取扱い・廃棄】**
29. 塗料は直射日光・雨を避け、子どもの手の届かない場所に保管してください。塗料は凍結させないでください。容器は横倒しにしないでください。
30. 溶剤形塗料・硬化剤は火気厳禁とし、危険物の貯蔵基準に従って保管してください。硬化剤は湿気と反応して変質するため、密栓して保管してください。
31. 取扱い時は十分に換気し、必要に応じて保護マスク・保護めがね・保護手袋を着用してください。皮膚に付着した場合は石けん水で洗い落としてください。
32. 塗料・塗料容器・塗装用具などは産業廃棄物として処理してください。洗浄水を排水溝・河川・土壌へ流さないでください。
33. 使用期限は未開封で、水性・水溶性溶剤は製造後6ヶ月、溶剤形は製造後12ヶ月です。

東京ケミテック
Tokyo Chemitech

標準塗装仕様書

1液水性反応硬化形外壁用シリコン系クリヤー塗料

# トーケミシリコンクリヤー [水性タイプ]

## 塗料性状・荷姿

| 塗料名 | 色相 | 艶 | 荷姿 | 混合比（重量） | ポットライフ | 標準塗り面積（2回塗り） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| トーケミシリコンクリヤー [水性タイプ] | 透明 | 艶有り 3分艶 | 15kg缶 | — | — | 約62～75㎡/15kg |

## 適用基材

| | |
|---|---|
| 外壁 | 意匠サイディング（新築～10年程度で、劣化・チョーキングが軽度のもの） |

## 標準塗装仕様（塗り替え）

| 塗装工程 | 塗料名 | 塗り回数 | 使用量 (kg/㎡/回) | 塗り重ね乾燥時間 (23℃) | 希釈剤 | 希釈率 (重量%) | 塗装方法 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事前診断 | 新築～10年程度で、劣化・チョーキングが軽度の基材に施工する。劣化の程度により付着不良・白化・むらが生じるため、チョーキング面など施工に適さない下地には施工しない。判断がつかない場合は試験施工を行い、吸込み・付着性を確認する。 | | | | | | |
| 下地調整 | ごみ・ほこり・油脂類・異物などの付着物を入念に除去し、高圧洗浄後は十分に乾燥させる。劣化した既存塗膜は、電動工具・手工具を用いて除去する。 | | | | | | |
| 上塗り | トーケミシリコンクリヤー [水性タイプ] | 2 | 0.10～0.12 | 4時間以上 | 水道水 | 0～4 | はけ・エアレス ウールローラー |

注）上記の数値は標準のものです。被塗物の形状・素地の状態・気象条件・施工条件などにより多少の幅が生じることがあります。

## 施工上の注意事項

**【本製品の注意事項】**

1. ハイパイルローラーは、気泡が消えずに白濁する場合があるため使用しないでください。
2. 溝の深いサイディングや粗面で塗料がたまると、白濁して硬化します。塗料だまりができないよう均一に塗装してください。
3. チョーキングが目立つ下地には塗装しないでください。仕上がりのむらや、塗装後のはく離の原因となります。
4. 素焼きのような多孔質のタイルやレンガタイルには施工しないでください。

**【施工環境・気象条件】**

5. 気温5℃以下、湿度85%以上、被塗物の表面温度が5℃以下の場合、結露のおそれがある場合、屋外で降雨・降雪・強風のおそれがある場合は塗装を避けてください。
6. 乾燥不十分な状態で降雨・結露の影響を受けると、ふくれ・はく離・白化・シミなどが発生するおそれがあります。夜露の早い地域や寒暖差の大きい時期は、早めに作業を終えてください。
7. 絶えず結露が発生する部位・環境での使用は避けてください。水性塗料、水溶性溶剤塗料では塗料中の水溶性成分が表面に溶出し、粘着物として析出することがあります。
8. ALC・軽量モルタル・高断熱型窯業系サイディング・発泡ウレタン使用建材など蓄熱しやすい「高断熱型外壁」では、蓄熱・水分・塗装環境などの条件が重なると、ふくれ・はく離が生じることがあります。躯体含水率が高い場合や漏水の止水処理が不十分な場合も同様です。旧塗膜にふくれがある場合は完全に除去してください。

**【素地調整・下地】**

9. 塗り替えの際は高圧洗浄やブラシなどで付着物・劣化塗膜を十分に除去してください。素地調整が不十分な場合、はく離・光沢不良・色むらなどの原因となります。
10. 高圧洗浄後は十分に乾燥させてから塗装してください。
11. 藻・かびが繁殖している場合は、除去および殺菌処理後に十分水洗・乾燥させてから塗装してください。防藻・防かび性は繁殖を抑制するものです。
12. 洗浄に薬剤を用いた場合は入念に水洗いし、被塗面が中性であることを確認してください。薬剤が残存するとふくれ・はく離・白化の原因となります。

**【調合・希釈・かくはん】**

13. 希釈は規定の希釈剤・希釈率を守ってください。過剰希釈は光沢低下・だれの原因となります。現場で一度定めた希釈率は以降も同一としてください。
14. 使用前に十分にかくはんしてください。艶調整品は艶消し剤が沈降しやすいため特に入念に。開缶後は一度に使い切り、残った塗料を元の容器に戻さないでください。

**【塗装作業】**

15. 所定の塗り回数・使用量を必ず守ってください。不足すると性能が十分に発揮されないおそれがあります。
16. 塗り重ね乾燥時間を守ってください。短いと、ちぢみ・割れ・乾燥不良、長く空きすぎると層間の付着不良の原因となります。
17. ローラー目は同一方向にそろえて仕上げてください。はけ・ローラーは製品ごとに専用とし（水性塗料はナイロンはけ）、その日のうちに洗浄してください。
18. 塗装しない箇所は事前に養生し、付着した塗料は直ちに拭き取ってください。

**【仕上がり・補修】**

19. 被塗物の形状・膜厚・塗装方法などにより、艶や仕上がりが見本と若干異なって見える場合があります。事前に試し塗りを行ってください。
20. 艶調整品は塗り継ぎで艶むらが生じやすいため、面を切って通し塗りしてください。
21. 補修用に使用塗料のロットを控えておき、同一ロット・同一希釈率・同一塗装方法で補修してください。はけ塗りとローラー塗りが混在すると、仕上がり肌や色相に若干の差が生じます。

**【適用部位・部材】**

22. シーリング面への塗装は、汚染・はく離・割れ・粘着の原因となるため、原則として行わないでください。やむを得ず行う場合は、ノンブリードタイプのシーリング材を用い、完全硬化後に塗り重ね適合性を確認のうえ塗装してください。
23. 可塑剤を多く含む部材（塩ビ鋼板・軟質塩ビ・ゴムパッキン・合成皮革・ラミネート材など）への塗装は、粘着・軟化・汚染が生じるおそれがあります。
24. ドア・手すりなど人が頻繁に触れる部位、床・家具・遊具への塗装は避けてください。

**【保管・取扱い・廃棄】**

25. 塗料は直射日光・雨を避け、子どもの手の届かない場所に保管してください。塗料は凍結させないでください。容器は横倒しにしないでください。
26. 取扱い時は十分に換気し、必要に応じて保護マスク・保護めがね・保護手袋を着用してください。皮膚に付着した場合は石けん水で洗い落としてください。
27. 塗料・塗料容器・塗装用具などは産業廃棄物として処理してください。洗浄水を排水溝・河川・土壌へ流さないでください。
28. 使用期限は未開封で、水性・水溶性溶剤は製造後6ヶ月、溶剤形は製造後12ヶ月です。

東京ケミテック
Tokyo Chemitech

標準塗装仕様書

2液水性反応硬化形外壁用無機系クリヤー塗料

# トーケミ無機クリヤー[水性タイプ]

## 塗料性状・荷姿

| 塗料名 | 色相 | 艶 | 荷姿（1セット） | 混合比（重量） | ポットライフ | 標準塗り面積（2回塗り） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| トーケミ無機クリヤー[水性タイプ] | 透明 | 艶有り3分艶 | 16kgセット（主剤15.0kg・硬化剤1.0kg） | 主剤：硬化剤＝15：1 | 8時間以内（23℃） | 約50～66㎡/16kg |

## 適用基材

| | |
|---|---|
| 外壁 | 意匠サイディング（新築～10年程度で、劣化・チョーキングが軽度のもの） |

## 標準塗装仕様（塗り替え）

| 塗装工程 | 塗料名 | 塗り回数 | 使用量(kg/㎡/回) | 塗り重ね乾燥時間(23℃) | 希釈剤 | 希釈率(重量%) | 塗装方法 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事前診断 | 新築～10年程度で、劣化・チョーキングが軽度の基材に施工する。劣化の程度により付着不良・白化・むらが生じるため、チョーキング面など施工に適さない下地には施工しない。判断がつかない場合は試験施工を行い、吸込み・付着性を確認する。 | | | | | | |
| 下地調整 | ごみ・ほこり・油脂類・異物などの付着物を入念に除去し、高圧洗浄後は十分に乾燥させる。劣化した既存塗膜は、電動工具・手工具を用いて除去する。 | | | | | | |
| 上塗り | トーケミ無機クリヤー[水性タイプ] | 2 | 0.12～0.16 | 4時間以上 | 水道水 | 0～5 | はけ・エアレス<br>ウールローラー |

注）上記の数値は標準のものです。被塗物の形状・素地の状態・気象条件・施工条件などにより多少の幅が生じることがあります。

## 施工上の注意事項

**【本製品の注意事項】**

1. 主剤と硬化剤をなじませるため、調合後5～15分程度静置してから使用してください。
2. ハイパイルローラーは、気泡が消えずに白濁する場合があるため使用しないでください。
3. 溝の深いサイディングや粗面で塗料がたまると、白濁して硬化します。塗料だまりができないよう均一に塗装してください。
4. チョーキングが目立つ下地には塗装しないでください。仕上がりのむらや、塗装後のはく離の原因となります。
5. 素焼きのような多孔質のタイルやレンガタイルには施工しないでください。

**【施工環境・気象条件】**

6. 気温5℃以下、湿度85%以上、被塗物の表面温度が5℃以下の場合、結露のおそれがある場合、屋外で降雨・降雪・強風のおそれがある場合は塗装を避けてください。
7. 乾燥不十分な状態で降雨・結露の影響を受けると、ふくれ・はく離・白化・シミなどが発生するおそれがあります。夜露の早い地域や寒暖差の大きい時期は、早めに作業を終えてください。
8. 絶えず結露が発生する部位・環境での使用は避けてください。水性塗料、水溶性溶剤塗料では塗料中の水溶性成分が表面に溶出し、粘着物として析出することがあります。
9. ALC・軽量モルタル・高断熱型窯業系サイディング・発泡ウレタン使用建材など蓄熱しやすい「高断熱型外壁」では、蓄熱・水分・塗装環境などの条件が重なると、ふくれ・はく離が生じることがあります。躯体含水率が高い場合や漏水の止水処理が不十分な場合も同様です。旧塗膜にふくれがある場合は完全に除去してください。

**【素地調整・下地】**

10. 塗り替えの際は高圧洗浄やブラシなどで付着物・劣化塗膜を十分に除去してください。素地調整が不十分な場合、はく離・光沢不良・色むらなどの原因となります。
11. 高圧洗浄後は十分に乾燥させてから塗装してください。
12. 藻・かびが繁殖している場合は、除去および殺菌処理後に十分水洗・乾燥させてから塗装してください。防藻・防かび性は繁殖を抑制するものです。
13. 洗浄に薬剤を用いた場合は入念に水洗いし、被塗面が中性であることを確認してください。薬剤が残存するとふくれ・はく離・白化の原因となります。

**【調合・希釈・かくはん】**

14. 2液形塗料は主剤と硬化剤を規定の比率で正確に計量し、電動かくはん機で缶底・四隅まで均一に混合してください。混合比の誤りは乾燥不良・付着不良・耐久性低下の原因となります。ポットライフを過ぎた塗料は、外観上使用できる状態でも絶対に使用しないでください。
15. 希釈は規定の希釈剤・希釈率を守ってください。過剰希釈は光沢低下・だれの原因となります。現場で一度定めた希釈率は以降も同一としてください。
16. 使用前に十分にかくはんしてください。艶調整品は艶消し剤が沈降しやすいため特に入念に。開缶後は一度に使い切り、残った塗料を元の容器に戻さないでください。

**【塗装作業】**

17. 所定の塗り回数・使用量を必ず守ってください。不足すると性能が十分に発揮されないおそれがあります。
18. 塗り重ね乾燥時間を守ってください。短いと、ちぢみ・割れ・乾燥不良、長く空きすぎると層間の付着不良の原因となります。
19. ローラー目は同一方向にそろえて仕上げてください。はけ・ローラーは製品ごとに専用とし（水性塗料はナイロンはけ）、その日のうちに洗浄してください。
20. 塗装しない箇所は事前に養生し、付着した塗料は直ちに拭き取ってください。

**【仕上がり・補修】**

21. 被塗物の形状・膜厚・塗装方法などにより、艶や仕上がりが見本と若干異なって見える場合があります。事前に試し塗りを行ってください。
22. 艶調整品は塗り継ぎで艶むらが生じやすいため、面を切って通し塗りしてください。
23. 補修用に使用塗料のロットを控えておき、同一ロット・同一希釈率・同一塗装方法で補修してください。はけ塗りとローラー塗りが混在すると、仕上がり肌や色相に若干の差が生じます。

**【適用部位・部材】**

24. シーリング面への塗装は、汚染・はく離・割れ・粘着の原因となるため、原則として行わないでください。やむを得ず行う場合は、ノンブリードタイプのシーリング材を用い、完全硬化後に塗り重ね適合性を確認のうえ塗装してください。
25. 可塑剤を多く含む部材（塩ビ鋼板・軟質塩ビ・ゴムパッキン・合成皮革・ラミネート材など）への塗装は、粘着・軟化・汚染が生じるおそれがあります。
26. ドア・手すりなど人が頻繁に触れる部位、床・家具・遊具への塗装は避けてください。

**【保管・取扱い・廃棄】**

27. 塗料は直射日光・雨を避け、子どもの手の届かない場所に保管してください。塗料は凍結させないでください。容器は横倒しにしないでください。
28. 溶剤形塗料・硬化剤は火気厳禁とし、危険物の貯蔵基準に従って保管してください。硬化剤は湿気と反応して変質するため、密栓して保管してください。
29. 取扱い時は十分に換気し、必要に応じて保護マスク・保護めがね・保護手袋を着用してください。皮膚に付着した場合は石けん水で洗い落としてください。
30. 塗料・塗料容器・塗装用具などは産業廃棄物として処理してください。洗浄水を排水溝・河川・土壌へ流さないでください。
31. 使用期限は未開封で、水性・水溶性溶剤は製造後6ヶ月、溶剤形は製造後12ヶ月です。

東京ケミテック
Tokyo Chemitech

標準塗装仕様書

2液弱溶剤反応硬化形外壁用無機系クリヤー塗料

# トーケミ無機クリヤー[弱溶剤タイプ]

## 塗料性状・荷姿

| 塗料名 | 色相 | 艶 | 荷姿（1セット） | 混合比（重量） | ポットライフ | 標準塗り面積（2回塗り） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| トーケミ無機クリヤー[弱溶剤タイプ] | 透明 | 艶有り 3分艶 | 16kgセット（主剤14.0kg・硬化剤2.0kg） | 主剤：硬化剤＝7：1 | 6時間以内（23℃） | 約50～66㎡/16kg |

## 適用基材

| | |
|---|---|
| 外壁 | 意匠サイディング（新築～10年程度で、劣化・チョーキングが軽度のもの） |

## 標準塗装仕様（塗り替え）

| 塗装工程 | 塗料名 | 塗り回数 | 使用量(kg/㎡/回) | 塗り重ね乾燥時間(23℃) | 希釈剤 | 希釈率(重量%) | 塗装方法 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事前診断 | 新築～10年程度で、劣化・チョーキングが軽度の基材に施工する。劣化の程度により付着不良・白化・むらが生じるため、チョーキング面など施工に適さない下地には施工しない。判断がつかない場合は試験施工を行い、吸込み・付着性を確認する。 | | | | | | |
| 下地調整 | ごみ・ほこり・油脂類・異物などの付着物を入念に除去し、高圧洗浄後は十分に乾燥させる。劣化した既存塗膜は、電動工具・手工具を用いて除去する。 | | | | | | |
| 上塗り | トーケミ無機クリヤー[弱溶剤タイプ] | 2 | 0.12～0.16 | 4時間以上7日以内 | 塗料用シンナー | 0～3 | はけ・エアレス ウールローラー |

注）上記の数値は標準のものです。被塗物の形状・素地の状態・気象条件・施工条件などにより多少の幅が生じることがあります。

## 施工上の注意事項

**【本製品の注意事項】**

1. ハイパイルローラーは、気泡が消えずに白濁する場合があるため使用しないでください。
2. チョーキングが目立つ下地には塗装しないでください。仕上がりのむらや、塗装後のはく離の原因となります。
3. 素焼きのような多孔質のタイルやレンガタイルには施工しないでください。
4. 弱溶剤形塗料のため、取扱い時は火気に注意し、消防法・労働安全衛生法などの関係法令を守ってください。

**【施工環境・気象条件】**

5. 気温5℃以下、湿度85%以上、被塗物の表面温度が5℃以下の場合、結露のおそれがある場合、屋外で降雨・降雪・強風のおそれがある場合は塗装を避けてください。
6. 乾燥不十分な状態で降雨・結露の影響を受けると、ふくれ・はく離・白化・シミなどが発生するおそれがあります。夜露の早い地域や寒暖差の大きい時期は、早めに作業を終えてください。
7. 絶えず結露が発生する部位・環境での使用は避けてください。
8. ALC・軽量モルタル・高断熱型窯業系サイディング・発泡ウレタン使用建材など蓄熱しやすい「高断熱型外壁」では、蓄熱・水分・塗装環境などの条件が重なると、ふくれ・はく離が生じることがあります。躯体含水率が高い場合や漏水の止水処理が不十分な場合も同様です。旧塗膜にふくれがある場合は完全に除去してください。

**【素地調整・下地】**

9. 塗り替えの際は高圧洗浄やブラシなどで付着物・劣化塗膜を十分に除去してください。素地調整が不十分な場合、はく離・光沢不良・色むらなどの原因となります。
10. 高圧洗浄後は十分に乾燥させてから塗装してください。
11. 藻・かびが繁殖している場合は、除去および殺菌処理後に十分水洗・乾燥させてから塗装してください。防藻・防かび性は繁殖を抑制するものです。
12. 洗浄に薬剤を用いた場合は入念に水洗いし、被塗面が中性であることを確認してください。薬剤が残存するとふくれ・はく離・白化の原因となります。

**【調合・希釈・かくはん】**

13. 2液形塗料は主剤と硬化剤を規定の比率で正確に計量し、電動かくはん機で缶底・四隅まで均一に混合してください。混合比の誤りは乾燥不良・付着不良・耐久性低下の原因となります。ポットライフを過ぎた塗料は、外観上使用できる状態でも絶対に使用しないでください。
14. 希釈は規定の希釈剤・希釈率を守ってください。過剰希釈は光沢低下・だれの原因となります。現場で一度定めた希釈率は以降も同一としてください。
15. 使用前に十分にかくはんしてください。艶調整品は艶消し剤が沈降しやすいため特に入念に。開缶後は一度に使い切り、残った塗料を元の容器に戻さないでください。

**【塗装作業】**

16. 所定の塗り回数・使用量を必ず守ってください。不足すると性能が十分に発揮されないおそれがあります。
17. 塗り重ね乾燥時間を守ってください。短いと、ちぢみ・割れ・乾燥不良、長く空きすぎると層間の付着不良の原因となります。
18. ローラー目は同一方向にそろえて仕上げてください。はけ・ローラーは製品ごとに専用とし（水性塗料はナイロンはけ）、その日のうちに洗浄してください。
19. 塗装しない箇所は事前に養生し、付着した塗料は直ちに拭き取ってください。

**【仕上がり・補修】**

20. 被塗物の形状・膜厚・塗装方法などにより、艶や仕上がりが見本と若干異なって見える場合があります。事前に試し塗りを行ってください。
21. 艶調整品は塗り継ぎで艶むらが生じやすいため、面を切って通し塗りしてください。
22. 補修用に使用塗料のロットを控えておき、同一ロット・同一希釈率・同一塗装方法で補修してください。はけ塗りとローラー塗りが混在すると、仕上がり肌や色相に若干の差が生じます。

**【適用部位・部材】**

23. シーリング面への塗装は、汚染・はく離・割れ・粘着の原因となるため、原則として行わないでください。やむを得ず行う場合は、ノンブリードタイプのシーリング材を用い、完全硬化後に塗り重ね適合性を確認のうえ塗装してください。
24. 可塑剤を多く含む部材（塩ビ鋼板・軟質塩ビ・ゴムパッキン・合成皮革・ラミネート材など）への塗装は、粘着・軟化・汚染が生じるおそれがあります。
25. ドア・手すりなど人が頻繁に触れる部位、床・家具・遊具への塗装は避けてください。

**【保管・取扱い・廃棄】**

26. 塗料は直射日光・雨を避け、子どもの手の届かない場所に保管してください。塗料は凍結させないでください。容器は横倒しにしないでください。
27. 溶剤形塗料・硬化剤は火気厳禁とし、危険物の貯蔵基準に従って保管してください。硬化剤は湿気と反応して変質するため、密栓して保管してください。
28. 取扱い時は十分に換気し、必要に応じて保護マスク・保護めがね・保護手袋を着用してください。皮膚に付着した場合は石けん水で洗い落としてください。
29. 塗料・塗料容器・塗装用具などは産業廃棄物として処理してください。洗浄水を排水溝・河川・土壌へ流さないでください。
30. 使用期限は未開封で、水性・水溶性溶剤は製造後6ヶ月、溶剤形は製造後12ヶ月です。

東京ケミテック
Tokyo Chemitech

標準塗装仕様書

2液水溶性溶剤高耐候形外壁用無機系クリヤー塗料

# トーケミ無機クリヤー[水溶性溶剤タイプ]

## 塗料性状・荷姿

| 塗料名 | 色相 | 艶 | 荷姿（1セット） | 混合比（重量） | ポットライフ | 標準塗り面積（2回塗り） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| トーケミ無機クリヤー[水溶性溶剤タイプ] | 透明 | 艶有り | 12.8kgセット（主剤12.0kg・硬化剤0.8kg） | 主剤：硬化剤＝15：1 | 8時間以内（23℃） | 約49～64㎡/12.8kg |

## 適用基材

| | |
|---|---|
| 外壁 | 意匠サイディング（新築～10年程度で、劣化・チョーキングが軽度のもの） |

## 標準塗装仕様（塗り替え）

| 塗装工程 | 塗料名 | 塗り回数 | 使用量(kg/㎡/回) | 塗り重ね乾燥時間(23℃) | 希釈剤 | 希釈率(重量%) | 塗装方法 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事前診断 | 新築～10年程度で、劣化・チョーキングが軽度の基材に施工する。劣化の程度により付着不良・白化・むらが生じるため、チョーキング面など施工に適さない下地には施工しない。判断がつかない場合は試験施工を行い、吸込み・付着性を確認する。 | | | | | | |
| 下地調整 | ごみ・ほこり・油脂類・異物などの付着物を入念に除去し、高圧洗浄後は十分に乾燥させる。劣化した既存塗膜は、電動工具・手工具を用いて除去する。 | | | | | | |
| 上塗り | トーケミ無機クリヤー[水溶性溶剤タイプ] | 2 | 0.10～0.13 | 4時間以上 | 水道水 | 0～5 | はけ・エアレス<br>ウールローラー |

注）上記の数値は標準のものです。被塗物の形状・素地の状態・気象条件・施工条件などにより多少の幅が生じることがあります。

## 施工上の注意事項

**【本製品の注意事項】**

1. かくはん初期は硬化剤が水となじみにくく、手作業のかくはんでは混合不良となる場合があります。必ず電動かくはん機を使用してください。
2. ハイパイルローラーは、気泡が消えずに白濁する場合があるため使用しないでください。
3. 溝の深いサイディングや粗面で塗料がたまると、白濁して硬化します。塗料だまりができないよう均一に塗装してください。
4. チョーキングが目立つ下地には塗装しないでください。仕上がりのむらや、塗装後のはく離の原因となります。
5. 素焼きのような多孔質のタイルやレンガタイルには施工しないでください。

**【施工環境・気象条件】**

6. 気温5℃以下、湿度85%以上、被塗物の表面温度が5℃以下の場合、結露のおそれがある場合、屋外で降雨・降雪・強風のおそれがある場合は塗装を避けてください。
7. 乾燥不十分な状態で降雨・結露の影響を受けると、ふくれ・はく離・白化・シミなどが発生するおそれがあります。夜露の早い地域や寒暖差の大きい時期は、早めに作業を終えてください。
8. 絶えず結露が発生する部位・環境での使用は避けてください。水性塗料、水溶性溶剤塗料では塗料中の水溶性成分が表面に溶出し、粘着物として析出することがあります。
9. ALC・軽量モルタル・高断熱型窯業系サイディング・発泡ウレタン使用建材など蓄熱しやすい「高断熱型外壁」では、蓄熱・水分・塗装環境などの条件が重なると、ふくれ・はく離が生じることがあります。躯体含水率が高い場合や漏水の止水処理が不十分な場合も同様です。旧塗膜にふくれがある場合は完全に除去してください。

**【素地調整・下地】**

10. 塗り替えの際は高圧洗浄やブラシなどで付着物・劣化塗膜を十分に除去してください。素地調整が不十分な場合、はく離・光沢不良・色むらなどの原因となります。
11. 高圧洗浄後は十分に乾燥させてから塗装してください。
12. 藻・かびが繁殖している場合は、除去および殺菌処理後に十分水洗・乾燥させてから塗装してください。防藻・防かび性は繁殖を抑制するものです。
13. 洗浄に薬剤を用いた場合は入念に水洗いし、被塗面が中性であることを確認してください。薬剤が残存するとふくれ・はく離・白化の原因となります。

**【調合・希釈・かくはん】**

14. 2液形塗料は主剤と硬化剤を規定の比率で正確に計量し、電動かくはん機で缶底・四隅まで均一に混合してください。混合比の誤りは乾燥不良・付着不良・耐久性低下の原因となります。ポットライフを過ぎた塗料は、外観上使用できる状態でも絶対に使用しないでください。
15. 希釈は規定の希釈剤・希釈率を守ってください。過剰希釈は光沢低下・だれの原因となります。現場で一度定めた希釈率は以降も同一としてください。
16. 使用前に十分にかくはんしてください。艶調整品は艶消し剤が沈降しやすいため特に入念に。開缶後は一度に使い切り、残った塗料を元の容器に戻さないでください。

**【塗装作業】**

17. 所定の塗り回数・使用量を必ず守ってください。不足すると性能が十分に発揮されないおそれがあります。
18. 塗り重ね乾燥時間を守ってください。短いと、ちぢみ・割れ・乾燥不良、長く空きすぎると層間の付着不良の原因となります。
19. ローラー目は同一方向にそろえて仕上げてください。はけ・ローラーは製品ごとに専用とし（水性塗料はナイロンはけ）、その日のうちに洗浄してください。
20. 塗装しない箇所は事前に養生し、付着した塗料は直ちに拭き取ってください。

**【仕上がり・補修】**

21. 被塗物の形状・膜厚・塗装方法などにより、艶や仕上がりが見本と若干異なって見える場合があります。事前に試し塗りを行ってください。
22. 艶調整品は塗り継ぎで艶むらが生じやすいため、面を切って通し塗りしてください。
23. 補修用に使用塗料のロットを控えておき、同一ロット・同一希釈率・同一塗装方法で補修してください。はけ塗りとローラー塗りが混在すると、仕上がり肌や色相に若干の差が生じます。

**【適用部位・部材】**

24. シーリング面への塗装は、汚染・はく離・割れ・粘着の原因となるため、原則として行わないでください。やむを得ず行う場合は、ノンブリードタイプのシーリング材を用い、完全硬化後に塗り重ね適合性を確認のうえ塗装してください。
25. 可塑剤を多く含む部材（塩ビ鋼板・軟質塩ビ・ゴムパッキン・合成皮革・ラミネート材など）への塗装は、粘着・軟化・汚染が生じるおそれがあります。
26. ドア・手すりなど人が頻繁に触れる部位、床・家具・遊具への塗装は避けてください。

**【保管・取扱い・廃棄】**

27. 塗料は直射日光・雨を避け、子どもの手の届かない場所に保管してください。塗料は凍結させないでください。容器は横倒しにしないでください。
28. 溶剤形塗料・硬化剤は火気厳禁とし、危険物の貯蔵基準に従って保管してください。硬化剤は湿気と反応して変質するため、密栓して保管してください。
29. 取扱い時は十分に換気し、必要に応じて保護マスク・保護めがね・保護手袋を着用してください。皮膚に付着した場合は石けん水で洗い落としてください。
30. 塗料・塗料容器・塗装用具などは産業廃棄物として処理してください。洗浄水を排水溝・河川・土壌へ流さないでください。
31. 使用期限は未開封で、水性・水溶性溶剤は製造後6ヶ月、溶剤形は製造後12ヶ月です。